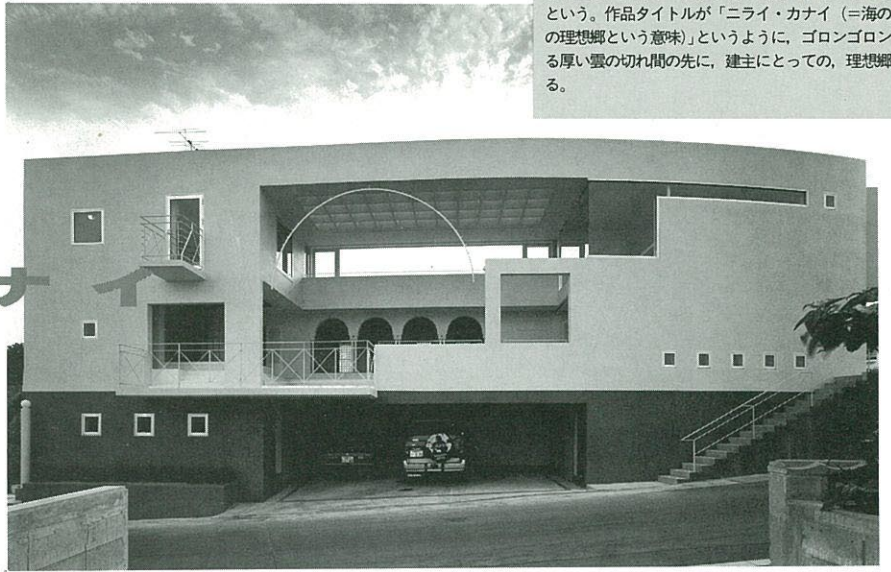


沖縄本島中部に建つ住宅である。2階のバルコニーは半屋外空間であり、その上部は格子状のトップライトになっている。居室に居ながらにして、「岬で海を一望している」という気分になる。前面に広がる青い海と、柔らかく心地よい風。自然を体感できる住宅である。この建築は東京に住む建主が、沖縄での仕事が続く時期に使用する住宅であるという。作品タイトルが「ニライ・カナイ（=海のかなたの理想郷という意味）」というように、ゴロンゴロンと流れる厚い雲の切れ目の先に、建主にとっての、理想郷が見える。（編）



PICK-UP ニライ・カナイ

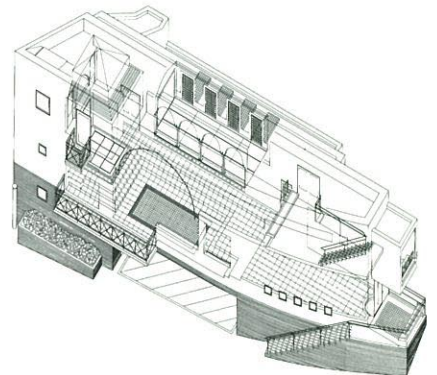
福村俊治＋空間計画VOYAGER
SHUNJI FUKUMURA /
SPACE DESIGN VOYAGER

所在 …… 沖縄県中頭郡読谷村
施工 …… 米正建設
構造 …… 鉄筋コンクリート壁式構造
規模 …… 地上3階建
敷地面積 …… 212.1 m²
建築面積 …… 102.6 m²
延床面積 …… 268.7 m²
地域地区 …… 無指定
掲載誌 …… 建築文化 9212

住宅は、「住む」という日常生活行為を機能的に満たす空間であることが基本であるが、その空間が、周囲の環境の中であって、より良い自然環境（自然の光・風・緑など）を享受し同化しながらも、独自の「小宇宙」・「別世界」を感じさせる空間であるべきと考えている。しかし、完全に設計者や住み手にコントロールされた空間であってはならない。移り変わる自然の力によって、常に「未知の世界」となり、住み手に予期せぬ感動を起こさせる非日常空間であるべきだ。

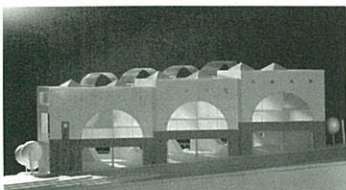
私たちは、東京と沖縄というまったく異なる地域・条件のもとで、同時に設計活動を進めてきた。常に対比して物事を見つめ、その地域の既存のものとは異なる新しい空間の創造を試みてきた。ある程度、成果もあがりつつある。しかし、過去において日本や世界の各地で名もない職人がつくった民家や集落のもつ豊かで感動的な空間に比べると、まだ及びもつかない。

表層の形や物の羅列に力点を置きがちな建物の多い現代の中で、その強い「引力」から離れ、異なる世界を「探査」しながらも、豊かな空間を快く「浮遊」できる「未知の世界」を創造したいと、私たち VOYAGER は夢んでいます。（福村俊治）



仮称 …… KOAリフレッシュセンター
所在 …… 沖縄県中頭郡読谷村
竣工予定 …… 1994年3月
沖縄・残波岬の近く、海が一望できる傾斜地に敷地がある。「ニライ・カナイ」のすぐ近くでもある。最下階には屋内プールをもつ6戸の集合住宅であり、小さな「ユートピア」の始まりである。

プロジェクト



P
I
C
K
U
P

ORION

ORION

写真撮影—栗原宏光

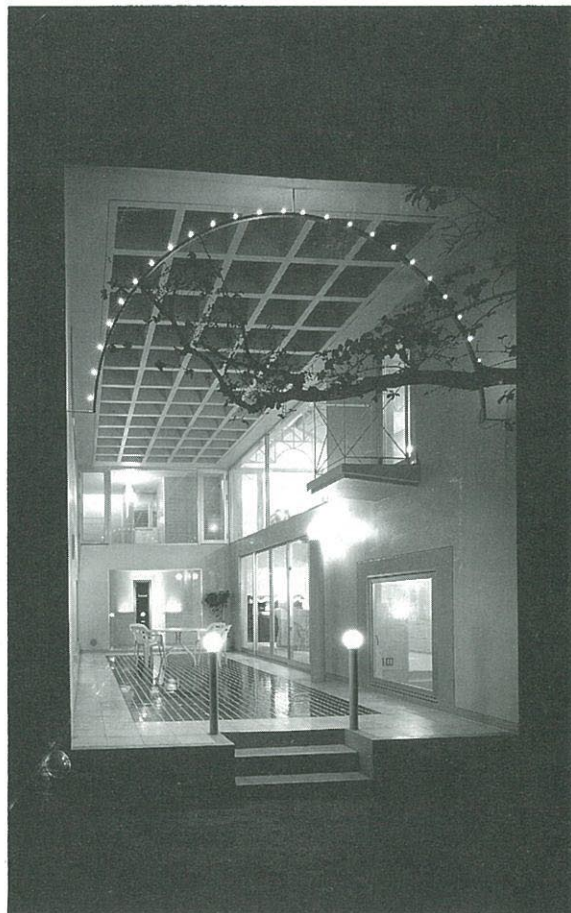
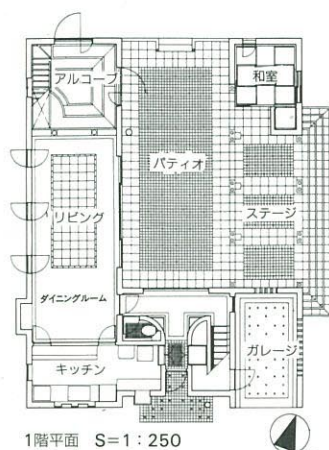
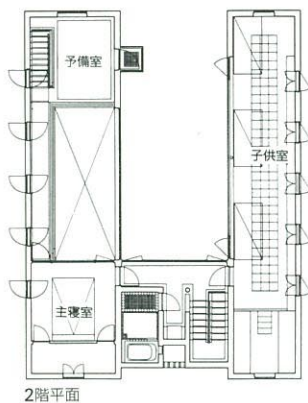
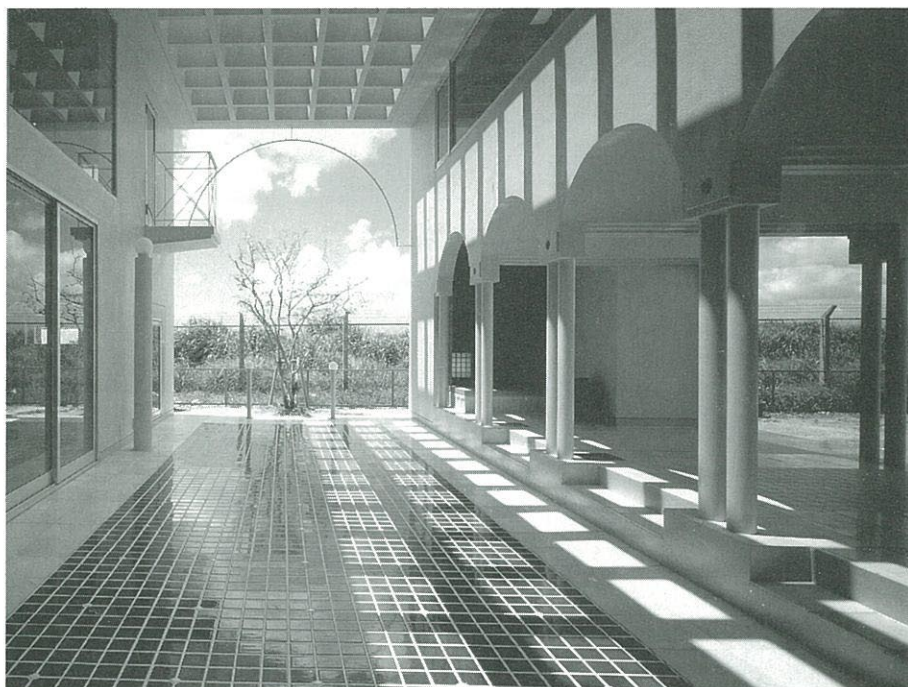
福村俊治/空間計画 VOYAGER
SHUNJI FUKUMARA/SPACE DESIGN VOYAGER

所在 …… 沖縄県宜野湾市
 施工 …… 与那嶺組
 構造 …… 鉄筋コンクリート壁式造
 規模 …… 地上2階建
 敷地面積 …… 619.4 m²
 建築面積 …… 120.5 m²
 延床面積 …… 192.3 m²
 地域地区 …… 第2種住居地域
 掲載誌 …… 日経アーキテクチャ 900917
 ・住宅特集 9010

作者の沖縄での仕事は、Team Zooのそれとは異なる、どこか乾燥した明るい幾何学とでもいった、不思議にカラリとしたものが感じられる。それはやはり、このパティオのもつつきな魅力からくるのだろう。そこでは、イスラム風に連続するアーチ、深い青色のタイル、矩形に切り取られて差し込む光、またパティオに連続したりビング・ダイニング、和室、暑くても風がよく回るだろう大きな吹抜けなどが一体となった、変化に富んだ空間構成がなされている。手法的には明らかに原広司の影響が見られるが、ここでは紺碧の空と、さわやかな風の織りなすアラベスクを最大限に呼吸すればよいだろう。(編)

経済的繁栄とともに、住宅の地位が建築のなかで薄らぎ、力作、話題作が少なくなりつつある。過去に比べて、規模も大きくなり、材料も豊かになりはしたものの、今の住宅の多くは“物”としての部品ばかりが目立ち、“空間”が見えなくなってきた。一見、多様で豊かな住宅も、それは建物の“部品の展開”であって“空間の創造”ではない。その点、ローコスト、最小限が課題となった時代のほうが、感動的作品が多かった。日本そして諸外国の地方で、名もない職人がつくった民家や集落に接して、空間の豊かさに驚かされることはいかに多いことか。

“物”でなく、“空間”を、それも内部空間でなく、半戸外的空間、そして外部空間へと連続し、難しい建築論やデザイン論でなく、何か設計者や住み手が、未知への新しい世界への「希望」や「夢」をはぐくむ空間を創造していくことが、われわれ VOYAGER の使命と考えています。(福村俊治)



プロジェクト

仮称 …… 飯塚邸
 所在 …… 沖縄県読谷村
 竣工予定 …… 1991年10月

沖縄・残波岬の近く、海が一望できる傾斜地に敷地がある。半戸外のパティオを取り囲むように各室があり、建具を納めると、住宅全体が開放的な1室空間となり、ニライカナイ(楽園)の海の空間へと連なる。

